

## 2025年度 設備投資計画

安全投資と成長投資の両輪による鉄道事業の持続的成長を目指し、総額約482億円の設備投資を実施

東急電鉄株式会社

当社は、中期事業戦略の2年目となる2025年度に、鉄道施設や設備の適切な維持更新やデジタル技術を活用した運営・お客さまサービスの高度化、新たな移動需要創出や環境に配慮した取り組みなど約482億円の設備投資を行います。

引き続き、中期事業戦略(2024～2026年度)に基づき、多様な「移動」を通じたリアルな体験がもたらす価値を通じて社会に貢献し続け、「移動」の価値を追求する企業への進化を目指し、安全投資と成長投資の両輪による鉄道事業の持続的成長を目指します。

### 主な取り組み

#### 価値① 安全で安心な移動の持続的な提供

##### 戦略Ⅰ. 安全・安心な鉄道の追求

- ・車両の新造(大井町線)、リニューアル(目黒線所属車両など)
- ・駅のリニューアル(桜新町駅、田奈駅、宮崎台駅)
- ・老朽化した構造物の維持・更新(たまプラーザ駅付近のトンネル、鶴見川橋梁)
- ・信号保安装置の更新(目黒線ATC<sup>※1</sup>更新、田園都市線・大井町線CBTC<sup>※2</sup>システム導入推進)
- ・各種自然災害対策(降雨・浸水対策、耐震補強工事)
- ・駅、踏切での事故防止対策(踏切障害物検知装置の3D化100%達成、非常停止ボタンの増設)

##### 戦略Ⅱ. 運営高度化と業界連携強化

- ・駅オペレーションの効率化に向けた駅務機器のさらなる高度化や遠隔サポート体制の構築
- ・田園都市線における定位置停止支援装置(TASC<sup>※3</sup>)の導入に向けた工事
- ・CBM<sup>※4</sup>支援システムのさらなる活用を通じたデータ活用・分析による保守の高度化
- ・最新技術を活用した運転業務や点検・検査業務の高度化・効率化(AI画像解析技術、四足歩行ロボット)

#### 価値② 新たな移動の創出

##### 戦略Ⅲ. マーケティングによる沿線活力の創出

- ・クレジットカードのタッチ決済・QRコード<sup>※5</sup>を活用した乗車サービスの拡大
- ・東急線アプリの機能向上

##### 戦略Ⅳ. 鉄道ネットワークの価値最大化

- ・ホームと車両の段差・隙間縮小
- ・田園都市線・大井町線における旅客案内装置の更新
- ・5G通信網の整備
- ・大井町線戸越公園付近の連続立体交差事業への取り組み

#### 価値③ 移動に伴う地球環境課題の解決

##### 戦略Ⅴ. 鉄道による環境・社会課題の解決

- ・省エネに向けた各種取り組み(駅構内照明のLED化など)
- ・田園都市線市が尾変電所への大規模蓄電システムの設置
- ・木材活用による駅リニューアル(千鳥町駅木になるリニューアル、田奈駅リニューアル、桜新町駅木造出入口上家)

2025年度の設備投資計画の詳細などは別紙の通りです。

- ※1 Automatic Train Control (自動列車制御装置)
- ※2 Communications-Based Train Control (無線式列車制御)
- ※3 Train Automatic Stop-position Control
- ※4 Condition Based Maintenance (状態保全)
- ※5 「QRコード」は株式会社デンソーウェーブの登録商標・JIS、ISO規格です。

以上

## 価値① 安全で安心な移動の持続的な提供

### I. 安全・安心な鉄道の追求

高度経済成長期以来、輸送需要増加にあわせて整備を進めてきた鉄道施設や設備の老朽化が進んでおり、鉄道施設や設備の故障に起因する遅延や運行支障のリスクが高まっていくことが予想されることから、大規模な修繕や更新を実施し、列車の安全・安定運行に必要な鉄道インフラの健全性の維持・向上に努めます。また、大規模地震や豪雨など近年激甚化する自然災害に備え、各種自然災害対策を強化し、被害の最小化や災害時の復旧時間短縮化に努めます。

#### ○車両の新造、リニューアル

##### ・大井町線車両新造

現在、大井町線の各駅停車で運行している9000系および9020系(18編成計90両)を置き換えるため、5両編成の6020系を順次導入します。本年夏以降、計8編成が営業運転を開始する予定です。

安全面では、車両機器を常に監視できる大容量情報管理装置を採用しており、車両故障の未然防止を図ることで運行のさらなる安定化を実現します。また、車内には空気清浄機の設置や、背もたれの高いハイバック仕様の座席を採用するなど快適性を追求するとともに、旧車両と比べ騒音の低減や使用電力の削減を実現するなど環境性能の高い車両です。

##### ・目黒線・東横線・田園都市線所属車両のリニューアル

現在、目黒線・東横線・田園都市線で運行している3000系、5050系(8両編成)、5000系、導入から約20年が経過しているため、エクステリア・インテリアデザインを一新するリニューアルを行います。目黒線3000系は本年秋頃、東横線5050系(8両編成)は本年冬頃、田園都市線5000系は2026年春頃から順次、営業運転を開始する予定です。



▲大井町線新造車両エクステリア(イメージ)  
(写真は同仕様の急行列車用6020系)



▲目黒線3000系エクステリア(イメージ)

#### ○駅のリニューアル

##### ・田園都市線地下区間駅リニューアル工事(桜新町駅)

脱炭素・循環型社会の貢献および地域に開かれた「サステナブルな地下駅」を目指し、田園都市線地下区間5駅(池尻大橋駅・三軒茶屋駅・駒沢大学駅・桜新町駅・用賀駅)のリニューアルプロジェクト「Green UNDER GROUND」を進めています。第1弾となる駒沢大学駅リニューアル工事には2021年度に着工し、本年3月に竣工しました。

第2弾となる桜新町駅のリニューアル工事は、2023年5月に着手しており、2026年夏頃の竣工を予定しています。コンセプトは「WITH THE CHERRYBLOSSOMS」とし、人々の暮らしや商店街の活気に寄り添う桜並木のような空間デザインとしています。駒沢大学駅に続き、壁面タイルなどの既存材を活用した計画に加え、空調機を大幅に増強・新設し、駅構内の快適性向上を目指します。



▲駒沢大学駅 リニューアル完了後



▲桜新町駅 リニューアルイメージ

### ・田園都市線田奈駅リニューアル工事

築59年を迎えた田園都市線田奈駅において、駅をご利用いただくお客さまの安全性、快適性向上を目的に、老朽化したホームおよびコンコースの内外装改修を進めており、2026年春頃の竣工を予定しています。田園都市線沿線の「まちをつくる魅力」と、田奈駅周辺地域の「大らかな自然の魅力」を、駅デザインや仕上げ素材により表現する計画としています。



▲駅外観イメージパース

### ・田園都市線宮崎台駅リニューアル工事

本年1月から田園都市線宮崎台駅において、ホーム、コンコースの内外装および駅前広場のリニューアル工事を進めており、2028年度の竣工を予定しています。宮崎台駅周辺の並木道の心地よさを駅から感じていただけるよう、また駅自体が「まちのリビング」のような存在となるために、「まちとのつながり」を意識し、「まちへ開いた駅」となることを目指した計画としています。



▲南口イメージパース

▲コンコースイメージパース

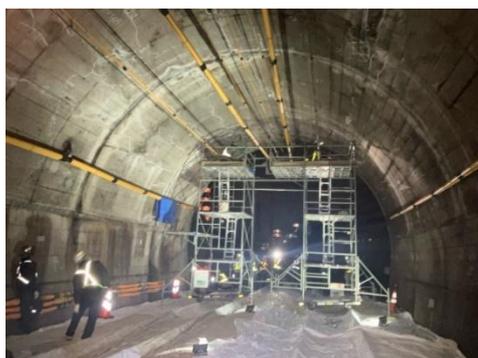
## ○老朽化した土木構造物の維持・更新

### ・田園都市線トンネル補修工事

鉄道施設や設備の老朽化が進んでおり、大規模な修繕や更新の時期を迎えています。前年度より引き続き、たまプラーザ駅～あざみ野駅間のトンネルにおいて、補修工事を実施するとともに、本年度は江田駅～市が尾駅間のトンネルにも着手し、安全性・健全性の確保に努めます。

### ・東横線鶴見川橋梁改修工事

築100年を迎える東横線綱島駅～大倉山駅間の鶴見川橋梁において、前年度に引き続き大規模な塗装改修や補修を実施し、橋梁の安全性・健全性の確保および耐久性の向上に努めます。



▲田園都市線たまプラーザ駅～あざみ野駅間  
トンネル補修工事



▲東横線鶴見川橋梁

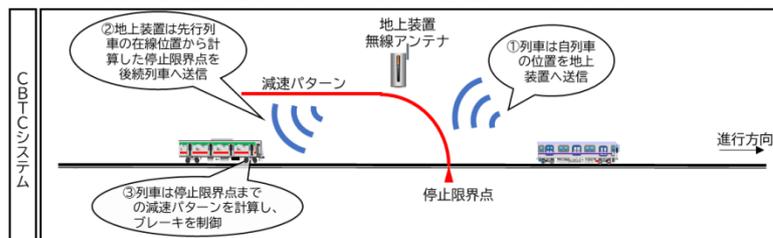
## ○信号保安装置の更新

### ・目黒線自動列車制御装置(ATC)の更新

当社では、列車間の安全な間隔を確保し列車衝突などの事故を未然に防止するための信号保安装置として、東横線・目黒線・東急新横浜線・田園都市線・大井町線には自動列車制御装置(ATC)を、池上線・東急多摩川線には自動列車停止装置(ATS)をそれぞれ導入しています。今般、目黒線では、導入後24年が経過し老朽化による機器故障リスクが高まっていることから、機器更新に着手し信号装置の健全性確保に努めます。

### ・田園都市線・大井町線における無線式列車制御システム(CBTCシステム)の導入推進

列車の安全・安定運行を確保するために、無線通信技術を活用して列車の位置や速度を連続的に把握し、列車間の安全な間隔を確保するCBTCシステムを2028年度に田園都市線、2031年度に大井町線で導入する予定です。本年度は引き続き設計や機器製作を進め、一部設備の工事に着手します。



▲CBTCシステム概要

## ○各種自然災害対策

### ・法面補強による土砂災害対策

大雨時の土砂災害対策として、線路脇の斜面をコンクリートなどで補強する工事を行っています。前年度は田園都市線青葉台駅～田奈駅間で補強工事を実施しました。本年度は新たに東横線綱島駅～大倉山駅間で実施する予定です。

### ・浸水対策

大雨時の各設備や駅構内への浸水を防ぐための工事を推進します。前年度に引き続き、東横線・田園都市線の電気設備への浸水対策工事を実施します。

### ・耐震補強工事

大規模地震に備えた減災対策および災害時の復旧性向上のため、前年度は東横線大倉山駅～菊名駅間、田園都市線・大井町線二子玉川駅の高架橋および東横線学芸大学駅～都立大学駅間の擁壁の耐震補強工事に着手しました。本年度は新たに東横線・目黒線武蔵小杉駅、田園都市線二子新地駅～高津駅間の高架橋の耐震補強工事に着手します。



▲田園都市線青葉台駅～田奈駅間  
補強後の法面

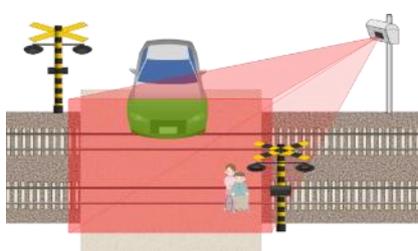


▲東横線・目黒線 多摩川駅～新丸子駅間  
補強後の高架橋柱

## ○駅、踏切での事故防止対策

### ・踏切障害物検知装置(世田谷線・こどもの国線を除き100%整備済み)の高度化の実施

自動車などが踏切で立ち往生した場合にセンサーが検知し、接近する列車の運転士に異常を知らせる信号を送る「踏切障害物検知装置」は2021年7月に世田谷線・こどもの国線を除く全ての踏切に設置を完了し、踏切の安全性の向上に寄与しています。現在、レーザー式センサーの検知装置が設置されている踏切において、より歩行者などを検知しやすい3Dセンサー式の導入を進めており、前年度は大井町線など7箇所の踏切へ設置が完了しました。本年度も引き続き大井町線など17箇所の踏切へ設置し、134箇所すべての踏切に3Dセンサー式の設置が完了する計画です。



▲3Dセンサー式障害物検知装置

### ・非常停止ボタンの増設

列車との接触事故を防ぐため、東急線83駅のホームに非常停止ボタンを設置しています。ボタンを操作すると、付近を走行する列車は異常を知らせる信号を受信し、運転士は列車を緊急停止させます。今般、ホーム上および列車運行の安全性をさらに向上させるため、主に目黒線各駅において非常停止ボタンの整備を進めます。



▲非常停止ボタン(左)と非常停止ボタン案内看板(右)

## II. 運営高度化と業界連携強化

人口減少や少子高齢化、技術職を中心とした人材の流動化を背景に、将来の鉄道事業の担い手不足に直面することが見込まれています。限られた人材で安全・安心で快適な鉄道サービスを維持するため、デジタル技術やデータ活用・分析による駅・運転業務や保守業務の高度化・効率化を推進し、従業員1人あたりの生産性向上を目指します。

### ○駅オペレーションの効率化に向けた駅務機器の更なる高度化

前年度は、お客さまサービスの向上や業務プロセスの改善のため、東横線反町駅や田園都市線宮崎台駅など9駅に遠隔機能や通話設備を備えた駅務機器を新設し、順次サービスを開始しました。また、本年度末には、遠隔対応が可能なセミセルフ型仕様の窓口処理機の導入を予定しています。



▲遠隔機能や通話設備を備えた駅務機器



▲セミセルフ型の窓口処理機(イメージ)

## ○田園都市線における定位置停止支援装置(TASC)の導入に向けた工事

駅停車時に列車をホームドア開口部に合わせた定位置に停止させるため、東横線・目黒線・東急新横浜線・池上線・東急多摩川線では定位置停止支援装置(TASC)を導入しています。

田園都市線での導入に向けて、本年度は前年度に引き続き車両の改造工事および地上装置の設置を進めます。これにより、運転士の運転操作の負荷を軽減させるとともに、効率的なブレーキ制御などによる遅延抑制や安定的な運行の確保を目指します。

## ○データ活用・分析による保守の高度化

運営の高度化と安全水準の維持・向上に向け、鉄道設備から取得できる各種データの活用・分析に取り組んでいます。2023年度以降、転てつ機と軌道を対象設備として運用を開始した「状態保全(CBM)支援システム」や、駒沢大学駅など5駅において導入した空調換気設備のクラウド型遠隔監視システム「クラウド SCADA」により、データの可視化・蓄積・分析を進めています。

本年度は対象設備数をさらに増やすとともに、変電所や配電所への適用なども進めます。これにより、現地検査の見直しによる業務の効率化、夜間作業の負担軽減、データに基づく円滑な技術伝承といった効果のほか、適切な設備更新計画の策定・実行によるコスト抑制、故障の未然防止による運行品質の維持・向上を図ります。

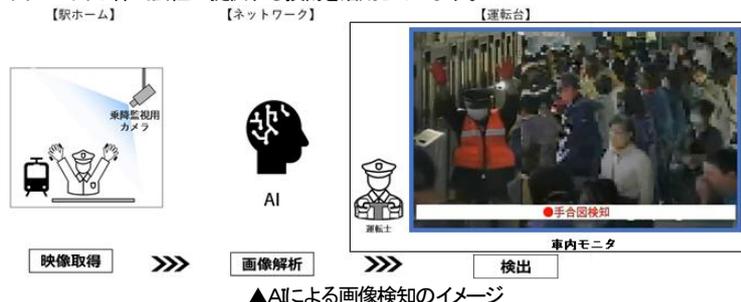
## ○最新技術を活用した運転業務や点検・検査業務の高度化・効率化

### ・「AI画像解析技術」を活用した運転業務のさらなる高度化

デジタル技術を活用したお客さまサービスの高度化とさらなる安全性の向上を目指し、ワンマン運転を行う運転士が閉扉する際の判断を補助するため、前年度はホームで介助が必要なお客さまのご案内を行う際の合図を送る駅係員を、AI画像解析技術※により検知し車内モニターに表示する実証実験を行いました。

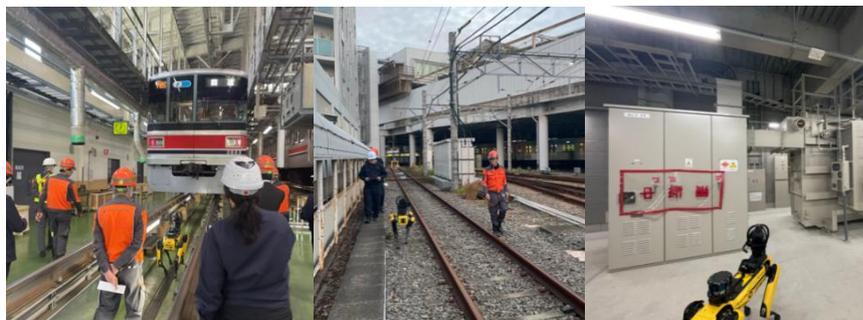
本年度は、本実証実験で得られた知見を活用し、運転士の閉扉判断に影響を与える検知対象の拡大も含め本格導入に向けた検討を進めます。

※パナソニック コネクト株式会社が提供する技術を活用しています。



### ・四足歩行ロボット「Spot(スポット)」を活用した点検・検査業務の高度化(実証実験)

鉄道事業における点検・検査業務の高度化・効率化に向けて、本年4月からBoston Dynamics社製の四足歩行ロボット「Spot(スポット)」を導入しました。本年度は元住吉駅周辺の変電所・車庫において、現在検査員が行っている電気設備や車両搭載機器の点検・検査業務を対象に、本ロボットに搭載された各種カメラ・センサーを用いて機器設備の状況を把握することで高度化・効率化を目指します。



▲変電所、車庫における本ロボットのデモ導入の様子

## 価値② 新たな移動の創出

### Ⅲ. マーケティングによる沿線活力の創出

コロナ禍を経て、新たなライフスタイルが定着した結果、定期券利用者が約2割減少しました。このような移動の変化や多様化・高度化するお客さまニーズを確実に捉え、子育て世帯や学生、シニア世代をはじめ、あらゆるお客さまに最適なサービスを提供し、沿線を中心とする移動と賑わいの創出に努めてまいります。

#### ○クレジットカードのタッチ決済・QRコードを活用した乗車サービスの拡大

2023年8月から、新たな移動の創出を目的とし、「クレジットカードのタッチ機能」および「QRコード」を活用した乗車サービスの実証実験を実施するとともに、デジタルチケットサービス「Q SKIP」を開始し、東急線全線が1日乗り降り自由のデジタルチケットや、沿線のお出かけ施設や地元の店舗利用チケットと乗車券がセットになったデジタルチケットなど、多様な商品サービス展開しております。前年5月からは「タッチ決済に対応したクレジットカードなどを使用した後払い乗車サービス」の実証実験を開始しました。

本年度は、利便性のさらなる向上やシームレスな移動を実現するため、現在実証実験として導入している「クレジットカードのタッチ決済」および「QRコード」に対応した改札機の増備を進め、多様な乗車手段の利用動向に関する検証を進めます。

より便利にご利用いただける環境整備をベースに、魅力的なチケットの発売による高付加価値の提供、乗車ポイントサービスや乗車・定期券の購入でコインが貯まる「TOQ COIN」サービスなどを通じた鉄道を軸とした顧客基盤強化を進め、顧客体験の向上や沿線における新たな移動の創出に努めます。



▲「クレジットカードのタッチ決済」「QRコード」に対応した改札機



▲クレジットカードのタッチ決済を活用した乗車サービス

#### ○東急線アプリの機能向上

東急線アプリは、2013年のサービス開始以降、最新の運行情報、運休や遅延など運転支障が生じた際の迂回ルート検索、リアルタイムな列車走行位置などの情報提供や、車内・改札などの混雑状況の見える化、バリアフリーの情報など、お客さまに安全かつ快適に電車や駅をご利用いただけるよう情報配信を強化してきました。

本年5月には、東急線アプリ内でデジタルチケットサービス「Q SKIP」をご購入・ご利用いただける機能を追加し、従来はウェブブラウザからのみアクセス可能だった「Q SKIP」のチケット表示や購入を、東急線アプリ内で簡単に行えるようになりました。当社との接点として多くのお客さまにご利用いただいている東急線アプリで「Q SKIP」をご購入・ご利用いただくことができ、より便利でスムーズなサービス体験をしていただくことができます。

引き続きお客さまと当社のデジタル顧客接点としての機能集約を目指し、鉄道・バスの情報配信を強化することに加え、沿線を中心とする移動とにぎわいの創出に資するアプリを目指していきます。

#### IV. 鉄道ネットワークの価値最大化

当社はこれまで、都心部や地域間のアクセス性向上を目的とした鉄道ネットワークの拡充・強化に重点を置き、各路線での相互直通運転化を通して関東広域にわたる鉄道ネットワークを構築してきました。今般、新空港線の事業化など引き続きネットワーク拡充に取り組みつつ、ユニバーサルなサービスの提供や情報配信の拡充などネットワーク利便性の改善にも努めます。

##### ○ホームと車両の段差・隙間縮小

本年度も引き続き、ホームと車両の段差・隙間縮小に関する取り組みを進めます。バリアフリーガイドラインに定める段差・隙間の目安値<sup>※1</sup>を満たすための取り組みで、当社はホーム上で目安値を満たす箇所が一目でわかるよう、目安値を満たし、かつ車いすスペースのある車両ドア<sup>※2</sup>の乗降口に、ピンク色のシンボルサインを対象箇所に順次掲示しております。

前年度は、池上線・東急多摩川線に加え、東横線・目黒線・田園都市線・大井町線の段差・隙間縮小工事に着手し、東急多摩川線において対応を完了しました。本年度も引き続き、各路線において、段差・隙間縮小工事を実施します。なお、ホームと車両の段差・隙間に関する情報は当社ホームページおよび東急線アプリで公表しており、目安値を満たす車両ドアから乗降することで、よりスムーズにご利用いただけます。

※1 目安値はホームと車両の段差が3cm以下、隙間が7cm以下を指します

※2 当社車両を基準としており、一部車両や混雑状況、ホーム形状などにより目安値を満たさない場合があります



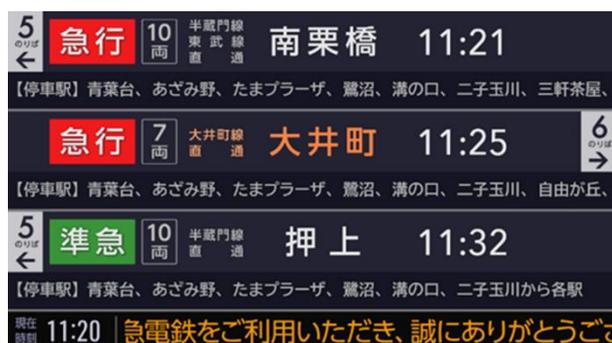
▲段差・隙間の目安値を満たす箇所の表示



▲くし形状ゴム設置による隙間の縮小

##### ○田園都市線・大井町線における旅客案内装置の更新

旅客案内装置は、駅コンコースおよびホームにおいて列車の行先や種別、出発時刻や途中駅での列車の接続情報をお知らせする装置です。現在も東急線全駅に設置されておりますが、2026年から田園都市線・大井町線において液晶ディスプレイを採用した新たな旅客案内装置を設置します。今般の更新により多様な情報をお客さまに分かりやすく提供することが可能となります。



▲田園都市線・大井町線において導入予定の旅客案内装置のイメージ

## ○5G通信網の整備

東急線をご利用されるお客さまに快適な通信環境を提供するため、5G通信網を整備します。当社では、社会全体のインフラ投資の最適化、アンテナや配線、無線装置などの基地局設備を共用する基地局シェアリングによる5G設備の構築を推進しております。前年度は3駅に設備を構築し、累計33駅で5Gサービスを開始しています。本年度も地下駅を中心とした鉄道施設への展開を進めます。



▲5Gシェアリング装置



▲駅ホーム上の5Gアンテナ

## ○大井町線戸越公園付近の連続立体交差事業への取り組み

連続立体交差事業とは、鉄道を連続的に高架化または地下化し、道路と立体交差させることで、踏切を解消する事業です。これにより、交通渋滞や踏切事故などの社会問題の解決、線路によって分断されていた地域の回遊性向上などに寄与します。当社はこれまで連続立体交差事業に積極的に取り組み、132箇所の踏切を解消してきました。現在は大井町線戸越公園駅付近における連続立体交差化に向けた取り組みを進めており、2023年度、都市計画決定されました。本年度は、前年度に引き続き、都市計画事業の認可や工事着手に向けた具体的な調査や設計を推進します。これにより大井町線で計6箇所の踏切が解消される予定です。

### (参考)新空港線の事業化に向けた取り組み

当社は、本年4月4日、国土交通省から、新空港線整備に向けた都市鉄道等利便増進法に基づく営業構想(1月17日に認定を申請)について認定を受けました。

今後は同法に基づき、認定営業構想事業者として他の認定構想事業者と協議のうえ、速達性向上計画の認定を国土交通省に申請する予定です。この営業構想は、東急多摩川線を矢口渡駅付近から蒲田駅まで地下化するとともに、蒲田駅と京浜急行電鉄本線・空港線京急蒲田駅付近までの区間に新設される連絡線(新空港線)を活用し、東急多摩川線と新空港線の直通運転を実施しようとするものです。なお、一部列車については多摩川駅から東横線への乗り入れを想定しています。

この連絡線(新空港線)は、交通政策審議会第198号答申(2016年4月)において「国際競争力の強化に資する鉄道ネットワークのプロジェクト」の一つに位置づけられており、JR京浜東北線、東急多摩川線および池上線蒲田駅と京急蒲田駅間のミッシングリンクを解消し、国際競争力強化の拠点である渋谷・新宿・池袋などや東京都北西部・埼玉県南西部と羽田空港とのアクセス利便性の向上に寄与するとともに、蒲田・京急蒲田地区をはじめとした地域のさらなる発展などに資するものです。

## 価値③ 移動に伴う地球環境課題の解決

### V. 鉄道による環境・社会課題の解決

東急株式会社にて掲げた「環境ビジョン2030」に基づき、脱炭素・循環型社会に向けた取り組みを本中期事業戦略期間においても進めています。前年度は、運転士がブレーキをかける際に発生する余剰再生電力の有効活用に向けて、南町田グランベリーパーク駅に駅舎補助電源装置を導入しました。

本年度は、再生可能エネルギー100%での運行を継続するほか、エネルギー利用の効率化や安定化に寄与する投資の促進、設備更新時における省エネ設備の導入・環境配慮の取り組みを進めます。



**・「移動」の価値を追求するための3つの価値と5つの戦略****価値① 安全で安心な移動の持続的提供****戦略Ⅰ. 安全・安心な鉄道の追求**

社会の変化に対応し、鉄道の最重要事項である安全・安心な鉄道をこれまで以上に追求します。

**戦略Ⅱ. 運営高度化と業界連携強化**

鉄道事業の担い手不足に対応するために、安全やサービス水準の維持を前提に高度化・効率化を遂行します。

**価値② 新たな移動の創出****戦略Ⅲ. マーケティングによる沿線活力の創出**

お客さまと地域の魅力である「場」「体験」をつなぐ移動プラットフォームを構築し、顧客体験(CX)の向上と人と情報が行き交う豊かで活気ある地域社会の実現を目指します。

**戦略Ⅳ. 鉄道ネットワークの価値最大化**

充実した鉄道ネットワークの利用しやすさの向上と更なる改良・拡張により、積極的な移動を促進します。

**価値③ 移動に伴う地球環境課題の解決****戦略Ⅴ. 鉄道による環境・社会課題の解決**

鉄道事業を通じて脱炭素・循環型社会の実現に向けた責務を果たすと共に、事業特性を活用した新たな価値創造・貢献等により、環境・社会課題の解決を目指します。

本事業戦略を達成するため、当社は移動価値の創造に寄与する人財の確保および育成を行い、デジタル技術を活用し、東急(株)グループの中核企業として鉄道を軸とした多様な連携によりエリア成長に貢献していきます。

詳細は、以下をご確認ください。

<https://www.tokyu.co.jp/railway/company/midplan/pdf/midplan202404.pdf>